

# 妙見山、氷の山植物採集記

北 村 四 郎

植物分類地理学会夏季採集会は兵庫県生物学会と共催で、兵庫県の妙見山及び氷の山で行った。本会委員からは北村・田川・広江・村田氏が参加した。会員には中島徳一郎・高木虎雄・米沢新治・岩谷成彦・堀川富彌・村田賢三・西山茂雄・北川昌典・大田久次・小林茂・山本新夫・田中道夫・布藤昌一・山崎俊彦・衆博子・藤本義昭・細見末男氏等も参加された。兵庫県生物学会からは会長森為三博氏・昆虫専攻の岩田博士・室井紳・渋谷久雄・山本茂信・土橋忠重氏等の幹事及び会員の方々が多く参加され、一行は80名となった。今度の採集会は豊岡高等学校及び八鹿高等学校の教官の方々に御世話にあずかり、又八鹿町克塚村、熊次村の役場の方々に一方ならぬ御迷惑をかけ、御厚情にあずかつたので、感謝する次第である。特に山本茂信氏の終始一貫した御尽力によつて我々は3日間の採集旅行に楽しく仕事することが出来た。毎日荷物を自動三輪車ではこんで頂いたのは大たすかりであつた。

8月9日。八鹿駅に午前10時半集合した我々は、バス2台を買い切り11時景色に向つた。景色に下車、少し坂を登つて石原日光院に昼食をとる。冷水につけたラムネを200本ボンボン音をさせた。ここから採集が始まる。山腹に滑いながら、妙見山の植物に精通した土橋教官の案内によつて、我々は楽しく妙見山に進む。途中ミヨウケンママコナ(新称)をとる。蔓に長い芒があるのが著しい。ママコナに比し蔓に長軟毛がないもので新しいものと思う。名草神社(770m)に近づくと植物が頗るよく繁つており、やや湿地にグロテスクなザゼンソウ、大きな葉のオダカラコウなどがあり、樹陰にギンバイソウ・ヒカゲミツバ・サンカヨウ・オオヤマハコベ・オオカニコウモリなどがある。名草神社に冷泉があり、水温は10C°である。その中にカワモズク *Batrachospermum* sp. を田川氏が見つけられた。ここで天然記念物、妙見の大杉を見上げる。神社で茶のふるまいにあずかり小憩、それから峠に向う。コミネカエデやシラネワラビがある。峠に地蔵があり、そこから妙見山頂(1142m)に向う路は今人は人が通わないのでこれは歩けない。峠を下つて行くと植物はよく繁つており、ルイヨウボタン・タイミンガサ・モミジカラスウリ(南方系、こんな北方まで来ているのは珍しい)をとつた。次いで日影に向い、天然記念物、猿尾滝を見る。このあたりから夕暮となり宿泊地福岡についたのは午後8時頃であつた。8月10日。ゆ

つくり朝寝した。福岡小学校で山本茂信氏の但馬観光写真展を見る。中学校で附近から出土する石器時代の多数の遺物を見た。9時30分福岡出発別宮に向う。途中山の沼にヒメガマが沢山野生していた。又ミヨウケンママコナをとつた。別宮で昼食をとる。この社殿の中にオオカニコウモリ・トチバニンジンがある。別宮から氷の山麓福定に向つたが一行は別宮のカツラを見に行つた人々と途をまちがえて福定に向つた人達とがあつた。福定へは午後4時頃到着。本日の途中にはアベマキの樹皮をむき、たばねて積んであるものを処々で見た。ヨルク代用として本年初めて出荷するのだそうである。山中にアベマキは多くは目につかぬが集荷すると可成りあるのに驚いた。このあたりは、近年コリヤナギを多産する。山腹に畑を作つて挿木する。3年目から毎年とる。秋に枝を刈り、たばねて冬を越し、翌年5月に田に植え、新芽の萌え出るころ皮をはぐと美しいはだとなる。1貫匁5~6百匁に売れ、熊次村だけでも3万貫位でらしい。普通のもの、葉のより細いもの、葉の短かいものなど三品を区別し、その中葉の細いものが最もよいのだそうである。豊岡に集荷する。8月11日。朝5時20分に福定出発。本日は熊次村の村長と小学校長が案内して下さつた。途は頗るよい、植物は繁つている。杉の植林がされてある。700m あたりに地藏堂があり、この後で岩谷氏が1948年8月30日オオダイトウヒレンを採集された。このあたりからブナが山頂まで沢山あり、ブナ・ミズナラの林、即ち温帯森林を進む。途中ミヤマカガリ・オオモミジガサをとる。峠は1200mであるが、それまでにエゾアジサイが美しい。ウチワドコロ、ミヤマガンクビソウなどをとる。峠で小憩する。ここから尾根づたいに山頂に向う。これからは珍らしい植物がある。大きなブナの下を通り、チシマザサの叢をこすと、コミネカエデ・クロブル・オオバツバムグラ・マイヅルソウ・シラネワラビ・オオバシヨリマ・ヒメスギラン・カラクサンダなどのシダを田川博士から教わる。ハスノハイチゴ・ミヤマタナタゲもある。山頂に近く岩場がある。この岩場に残存植物が多い。コケモモ・イワカガミが可成り沢山ある。オオジンヨウイチヤクソウ・イワキンバイもある。ここにチヨウセンシモツケ *Spiraea japonica* var. *angulata* KITAM. がある。これは大陸から九州を経て大山に及ぶが、更にここに東限の分布を示していることを今度初めて知つた。茎がひど

く角ばるのが特徴である。ダイセンキヤラボクもある。頂上(1510m)に達したのは9時~10時である。山頂には立派な物見台がある。兵舎は破壊されている。このあたりはチシマザサが優占し被度5。それにブナ・マンサク・ノリウツギなどが灌木状をして混生している。ヨツバヒヨドリが沢山美しく咲いていた。ダイセンキヤナギもある。オオバナガイチゴ *Rubus Kchenanus* FOCKE. があり、沢山に実が熟している。そつと食べてみたがまずい。ここから尾根を東方に進むと湿原があり、これをコセイヌマ(牧野博士命名)という。この周辺はスギが可成り広い場所を優占している。丈は低い、莖は地に臥しているものもある。野生のものであろう。チシマザサも入り、灌木ではホツツジ・イヌツゲ・クロミウスノキ・フウリンウメモドキ・クロソヨゴ・ハシバミなどが混っている。湿地には2種のミズゴケがある。一面に小灌木のアカモノがはつており、其の赤い果実が見事である。イワナシ・オ

ヤマリンドウ・モウセンゴケ・ツマトリソウ・マイヅルソウ・バイケイソウ・コバノトンボソウ・キンチドリ・ヤマドリゼンマイ・マンネンスキなどがある。この湿地の池の水を堀川氏が持ち帰り、平野実氏に教えてもらう。硅藻に *Eunotia pectinalis* (DILLW.) RAB., *Frustulia rhomboides* var. *saxonica* (RAB.) CL. などの種は氷の山では個体数の少ないのが面白いそうである。藍藻には *Chroococcus turgidus* (Kütz.) NAG., *Stigonema ocellatum* (DILLW.) THURET があり、まえの種は頗る多い。デスマツドには *Cosmariun cucurbita* BREE., *Tetmemcrus laevis* (Kütz.) RALPH., *Euastrum Sinuosum* LENORM var. *scrobiculatum* NORDST., *Arthrodesmus controversus* W. & G. S. WEST. がある。氷の山では個体数が少ないという。ゆつくり採集し、午前11時に昼食をとり、それから下山する。午後2時30分に福定に着いた。それから下つてバスに乗車4時15分八鹿駅についた。

小・中・高を一貫せる

全科目の検定教科書

新学習指導要領準拠

昭和二十八年年度発行科目

小學校用

国語・社会・算数・理科・音楽

中學校用

文学・言語・習字・社会・日本史・地図帳  
数学・理科・音楽・職業家庭・保健・英語

学校図書株式会社

11  
学図

高等學校用

文学・言語・一般社会・世界史・日本史  
人文地理・一般数学・解析I・解析II  
幾何・生物・地学・英語読本・英作文法

37  
好学

学図の姉妹会社  
株式会社 好学社

教科書執筆者の責任編修による  
教師用指導書・ワークブック発行

東京都港区芝三田豊岡町八番地  
電話 三田 5211-9番